

き 気づいたことから はじめよう！

じんけん
～「人権」ってなんだろう？～

みちか くらしを「じんけん」というしてんからふりかえ
身近な暮らしを「人権」という視点から振り返ってみましょう。

み まわ
身の回りでこのようなことがあったら、あなたならどうしますか。

ひとり みちか じんけん かんが せいかつ かつどう なか しゅたいてき
一人ひとりが身近なことから人権について考え、生活や活動の中で主体的かつ

せっきよくてき と く ひとひと しゃかい いちいん たが そんちよう ささ
積極的に取り組むとともに、すべての人々が社会の一員として互いに尊重し、支え

あ せいかつ きず
合いながら、ともに生活する「ダイバーシティかめやま」を築いていきましょう。



かめやまし
亀山市

こんなことってありませんか？

たろう りょうしん たろう はなこふうふ いえ おとす
太郎の両親が、太郎、花子夫婦の家を訪れた時のことです。

たろう きょう ゆう はんぼく つく
太郎：「今日の夕ご飯僕が作るよ。」

ははおや たろう つく しょくじ したく はなこ
母親：「太郎が作るの？」食事の支度は花子さんがするんじゃないの？」

ちちおや つく
父親：「どっちが作ってもいいじゃないか。」

たろう かじ たが きょうりょく
太郎：「そうだよ。家事はお互いに協力してするものだよ。」



しょくじ したく じょせい き
食事の支度は、女性がするものと決めつけていませんか？

おとこ しごと おんな かてい ふる せいべつ こていてき やくわりぶんたんいしき すこ
「男は仕事、女は家庭」といった古くからの性別による固定的な役割分担意識は、少し

ずつ見直されています。しかし、まだ、「男だから」「女だから」と性別によって役割を

固定した考え方があるのも事実です。家事、育児、介護などで、男性も女性もできること

から協力し合うことが大切です。

すべての人が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮するとともに、お互

いにその人権を尊重しつつ、喜びも責任もともに分かち合う、そんな男女共同参画社会

を実現しましょう。

どなり 隣のAちゃんが・・・

ある日の夕食のことです。

子ども：「最近、隣のAちゃん、よく学校休んでいるよ。」

母親：「どうしたんだろう。そういえば、昨日の夜、Aちゃんの泣き声が聞こえたけど・・・。」

翌日

子ども：「今日、Aちゃんを見たけど、顔に傷があったよ。」

母親：「おとといのこともあるし、児童相談所に相談してみる？」

父親：「それじゃあ、これから相談してみようか。」



子どもへの虐待は特別で、自分には関係ないと思っていないですか？

子どもへの虐待は、子育ての悩み、周囲からの孤立、DV、親の養育経験、経済的な問題

など、生活上のさまざまなストレスや葛藤を背景に、どの家族でも起こり得るものです。

もしも、「子どもが心配だ」と思ったら、市の窓口か、児童相談所に連絡してください。

あなたの連絡が子どもと親を救うきっかけとなります。

<三重県児童相談所虐待対応ダイヤル「189」(無料)>

<三重県児童相談所相談専用ダイヤル「0120-189-783」(無料)>

なぜだめなの？

ある日のことです。

祖母：「今度、生け花教室を開こうと思うの。」

父親：「今さら、そんなことしなくても。」

母親：「そうよ。お母さん、年を考えてください。」

子ども：「年をとると、自分のしたいことをしちゃいけないの？」



人は、一般的に年齢を重ねると、体力や知力の衰えが見られるものです。

しかし、仕事や社会参加の意欲を持っている高齢者もたくさんいます。

それなのに高齢者に対して、「もうそんなに頑張らなくても。」とか「年寄りの出る幕じゃない。」などと言うことがあります。あなたが、年齢を理由に社会参加の機会が奪われたり、

自由に意見を言えなかったりしたらどう思いますか。やがて誰もがたどる道です。高齢者の

意見を尊重し、みんなが一緒にいきいきと過ごせる方法を考えましょう。

スポーツクラブで

スポーツクラブの入会に来ました。

Aさん：「入会の申込みをしたいのですが。」

店員：「では、この申込書に記入してください。」



Aさん：「はい、書けました。」

店員：「当クラブでは障がいのある方の入会をお断りしています。」

Aさん：「え？なぜですか？」

障がいのある人に対して、正当な理由なく、サービスの提供を拒否したり、場所や時間帯などを制限する条件をつけたりしていないでしょうか？そうした対応も、障がいのある人への差別にあたります。

まずは、何が差別にあたるのかを正しく理解し、そうした差別や偏見といった心の中にある障壁（バリア）を取り除くことが大切です。

そして、障がいの有無にかかわらず、誰もがその人らしく暮らせる社会を私たちがみんなで実現しましょう。

なぜ気にするの？

けんがい はたら むすこ かえ
県外で働いている息子が帰ってきました。

むすこ けっこん ひと
息子：「結婚したい人がいるんだけど。」

ははおや ひと こんど やす つ
母親：「どんな人？今度の休みに連れてきてよ。」

むすこ がくせいじだい かつどう いっしょ
息子：「学生時代のサークル活動で一緒だったんだ。」

ちちおや
父親：「そうか。」

むすこ あと
息子がなくなった後で

ちちおや いえがら ひと
父親：「どんな家柄の人なんだろうね。」

そふ き あ
祖父：「聞き合わせをしないといけないな。」

ははおや ほんにんどうし す あ いえがら かんけい
母親：「本人同士が好き合っていれば、家柄なんて関係ないじゃない！」



ひと う えら きょじゅうち しゅっしん と ちょうさ
人は、生まれてくるところを選ぶことはできません。居住地や出身などを問う調査や

き あ おこな おう こじん そんげん きず こうい
聞き合わせを行ったり、これに応じたりすることは、個人の尊厳を傷つける行為であっ

て、まったく許されないことです。

きょじゅうち しゅっしん りゆう へんけん さべついしき も けんぽう ほしょう
居住地や出身などを理由にした偏見や差別意識を持つことは、憲法によって保障され

た基本的な人権に関わる問題です。

わたし ひとり さべつ ゆる
私一人ひとりが「差別をしない」「させない」「許さない」

という意識を高め、互いに尊重しあう社会を築きましょう。

しんぱい どうして心配なの？

あるアパートの一室、家族の会話です。

母 親：「今度うちの隣に、外国の人が入るんですって。」

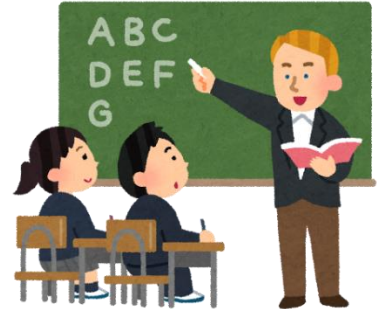
父 親：「どこの国の人なのかな。」

母 親：「言葉や習慣がちがうでしょ。」

うまくやっていけるかしら？心配だわ。」

子ども：「どうして外国の人が隣に住むと心配なの？」

学校にも外国人の先生がいるけど、とっても楽しい先生だよ！」



私 たちの心の中には、外国人を温かく迎えようとする気持ちがある一方、異なる文化や習慣などに対して、自分の価値観で判断したり、外国人を敬遠したりするようなことはないでしょうか。国が違えば、言葉、文化、生活習慣などが違うのは当たり前のことです。そして、その人たちは、私たち日本人と同様に、自分たちの国の言葉や文化を誇りに思い大切にしています。外国人による犯罪などが報じられると、短絡的にその国の人すべてが悪いような言い方をする人もいますが、偏見にとられず、心を開きコミュニケーションをとりながら、相手の文化や習慣などを受け止め、お互いに認め合う多文化共生社会を実現しましょう。

感染症って怖い？

ある日のことです。

まご 孫：「今日、隣のBちゃん家に遊びに行ってきたよ。」

そぼ 祖母：「Bちゃんの家族ってお医者さんだから、

新型コロナウイルスがうつるんじゃないの？」

まご 孫：「それは違うよ。お医者さんだからといって

Bちゃんの家族全員が新型コロナウイルスに感染しているってことはないよ。」

そぼ 祖母：「あら、そうなのかい。」



さいきん 最近では、新型コロナウイルス感染症に関して、感染者やその家族、医療従事者等に
たい 差別や誹謗中傷などが、大きな社会問題となっています。

「よく知らないから」「自分には関係ないから」と距離を置いてしまったり、病気に
ふあん 不安や恐怖から、相手を傷つけるような言動をしてしまったりすることのないよう、正しい
ちしき 知識を持ち、感染症患者等に対する偏見や差別をなくしていきましょう。

【エイズ・HIV感染について】

エイズなどの感染症の患者に対して、正しい知識や理解の不安から、偏見に基づく差別的
げんどう 言動が見受けられることがあります。HIVは感染経路が限られており、性行為以外の汗、
くしゃみ、握手、お風呂などの日常的な接触では感染しません。

ただ 正しい情報を得て、より認識を深め感染症患者等に対する温かい支援の輪を広げていき
ましよう。

こんなこと書いてもいいの？

インターネットの掲示板を見ていた二人の会話です。

Aさん：「ちょっと見て。となりのCさんのことが書き込まれているよ。」

Bさん：「こんなことを書いてもいいの？」

Aさん：「ねえ、どうせだれが書いたかわからないんだから、私たちも

Cさんの面白いことを書き込もうよ。」

Bさん：「それはやめておこうよ。」



インターネットの急速な普及に伴い、誰でも参加できる自由な意見交換の場として電子掲示板が設けられています。しかし、その匿名性を悪用して、ネットいじめや誹謗・中傷、他人を差別するような悪質な書き込みが見受けられます。いかに「表現の自由」があるといっても、誹謗・中傷や他人を差別するような「自由」はありません。また、匿名であっても、書き込んだ本人を特定することも可能です。こうした書き込みによって、憤りを感じたり傷付いたり悲しんだりする人がいることを十分に認識し、利用者一人ひとりがモラルを守り、インターネットを正しく利用しましょう。



れいわ ねん がつ
令和4年8月

かめやまししみんぶんかぶ ぶんかか じんけん
亀山市市民文化部 文化課 人権・ダイバーシティグループ

★^とあ^あい^{そつだんとう}あ^かわ^きせ^{れんらく}・相談等については、下記までご連絡ください。

TEL 0595-96-1224 FAX 0595-96-2414

E-mail:jinken@city.kameyama.mie.jp